

VOL.144

農協からのお便り

3
2020

グリーン
Green

地域と農業をむすぶJA広報誌



今月の表紙

ハウス除雪作業始まる…



Topics

- ・特集（星秀隆さん）
- ・上川小学校餅つき体験
- ・公告（第12回通常総会）

愛別地区

増田 貢さん

他



JA 上川中央

URL <http://www.ja-kamikawa.or.jp/>

特集

～ 私が思う今後の農業展望！ ～

「農業を支える意気込み」は地元を愛する何よりの証し



●愛別町野菜振興協議会 会長

星 秀 隆 さん

昭和29年 愛別町生まれ
昭和47年 旭川農業高校園芸科卒業
就農
昭和63年 父より経営移譲
平成30年 息子に経営委譲

《経営概要》

・水田 11.4ha
・転作作物 2.4ha
・きゅうりなど 500坪

露地野菜中心の経営から、水稲経営に方針転換したのが昭和48年。

「水稲経営が安定してからは、トマトやミニキュウリ、シシトウなどを栽培し、現在のきゅうりに至っています」、その歩みからは経営形態の変化に対応してきた苦勞を感じ取ることができます。

「高校卒業後は野菜作りをしたいと思っていたこともあり、休耕田を復田して水稲を作るのは大変でした。しかし、青年部のみんなと協力して『土の健康を守るカルテ』を作成し、機械化に対応した肥培管理に有効活用できたことは、一つの目標に向かってみんなで協力することの大切さを知りました」。

そんな言葉に、JA組織の理念と共通することが多いことに気づきます…。

「農業は自然が相手ですが、努力を重ねればそれなりの結果が待っていると思います。また、それなりの結果を出すためには、経営（数字）にも強くなくては継続していくことができないと感じています。」

その上で、「野菜栽培は難しいという概念を壊そうと省力化した栽培方法などを実践しており、JAの野菜取扱高を伸ばしたい」という思いは、JAにとっても心強く感じます。

「自分のしたいことができる年齢になったので、冬期間はゆっくり休んでそれらを楽しみたい！」という星会長。

そんな会長の姿をみると、振り返って見直すことの大切さを感じます。



いっぱい食べてくれました・・・

上川小学校5年生が餅つき体験!!

2/7

上川地区



終了後には、女性部から児童会のみなさんへ、集めたりグループの受け渡しも行われました。

その後、ひとりひとりが1年をとおし学習したことをスライドで紹介してくれました。

出来上がったお餅をいろいろな味付けで、いっぱい食べてくれました。

毎年、5年生が行う体験学習。5月に田植えをし、9月に稲刈りをしたそのもち米を杵と臼で、ペタンペタン。初めて体験する子どもたちで大賑わい。校長先生も参加して和気あいあい。



未来を拓く協同組合 JAと農業

未来を拓く協同組合 JAと農業

監修=JCA (日本協同組合連携機構)

『組合員』としての役割発揮

JAは、組合員が一人では解決できない農業や暮らしの困りごとを、他の組合員と力を合わせて解決するための組織です。そのためには、組合員同士で意見を出し合い、それをまとめることが必要となります。このような役割を「意思反映」や「運営参画」などと呼んでいます。しかし組合員になって間もない人がこうした役割を果たすのは容易ではありません。

そこでJAでは、組合員に対してまずは地域農業や協同組合、JAへの理解促進をはかり、その上でJA事業の複合利用や、さまざまな活動への参加を呼びかけています。さらに組合員の傾向や特性に合わせて、受け皿となる組合員組織(集落組織、支店運営委員会、年金友の会・共済友の会など)を整備しています。こうした多数の組合員が集まる「場」を通じて組合員の「意思反映」を図るとともに、その代表者による「運営参画」を進めています。

語句解説

【地域農業振興の応援団】(ちいさのうぎょうしんこうのおうえんだん)
JAグループは、准組合員を「地域農業や地域経済の発展を農業者と共に支えるパートナー」と位置付けています。地元産農畜産物の購入などによる「食べて応援」、援農ボランティアなどによる「作って応援」といった活動を促進し、正組合員だけでなく、准組合員も積極的な役割を果たす中での「農業者の所得増大」「農業生産の拡大」を目指しています。

組合員のメンバーシップ強化イメージ

アクティブ・メンバー

理事、組合員組織、支店運営委員等としてJA運営に参画

組合員組織等を通じてJA運営に意思反映

- 組合員組織、支店等の活動に複数参加
- 事業の複合利用

地域農業、協同組合、JAの理念を共有

JA加入・事業利用

准組合員の「地域農業振興の応援団」取り組みイメージ

作って応援 ●体験型農園 ●直売所への出荷
●援農ボランティア

食べて応援 ●直売所で地元農畜産物を購入
●農業応援金融商品(農業応援貯金)
●農業まつり、支店まつり
●農業体験イベント ●直売所でのイベント

第28回JA全国大会決議(概要版)をもとに作成



耕そう、大地と地域のみらい。

JAグループ通信

JA北海道中央会



J Aグループ北海道は北海道コンサドーレ札幌の選手やサポーターに、農業と食について考えてもらうことを目的として、「コンサ・土・農園（コンサ・ド・ファーム）」を開園しています。収穫した「トウモロコシ」や「馬鈴しょ」はコンサドーレのホームゲーム時にチャリティー販売を行い、その収益によりサッカーボールを購入し、道内の児童養護施設に寄贈しています。

今年度の募金額は 174,916 円となり、道内 24 か所の児童養護施設に 48 個のサッカーボールを贈呈することができました。この取り組みは平成 21 年より実施しており、サッカーボールの累計贈呈数は今年度で約 500 個となっております。

1 月 30 日に道内の児童養護施設を代表して札幌市内の養護園で贈呈式を行い、J Aグループ北海道より、J A北海道中央会の飛田会長、北海道コンサドーレ札幌より河合 C. R. C とドーレくんがサッカーボールを贈呈しました。



JA北海道信連



1 月 22 日、旭川市内で「J Aバンク北海道農業経営セミナー」を開催しました。北海道農業の未来に向けた農業経営者の「経営力向上」をテーマに講演が行われ、全道各地の農業経営者などが参加されました。講演では、農福連携・農福一体の取り組みや、地域ぐるみのブランド戦略等の事例について各講演者から説明がありました。講演後、交流会も催し、農業経営者間の情報交換及び連携強化を図りました。



JA共済連北海道



J A共済では、『「子ども共済」資料請求キャンペーン』を実施しております。J A共済ホームページから「子ども共済」の資料をご請求いただいた方に、『J A共済オリジナル アンパンマンはらまき』をプレゼントしております。キャンペーンは令和 2 年 3 月 27 日（金）までで、先着 60,000 名様限定となっております。この機会に J A共済のホームページにアクセスいただけますようお願いしております！

○ J A共済HPアドレス

<https://www.ja-kyosai.or.jp/>



ホクレン



冬至シーズンの道産かぼちゃ供給に向けてホクレンが商品化した銘柄「りょうおもい」を使った煮付けとあんこを組み合わせた総菜「冬至かぼちゃ」をセイコーマートが新規開発し、昨年 12 月に道内と茨城県に展開する全店で冬至前後の期間限定での試験販売をしました。「りょうおもい」は、ホクレンが品種選定、貯蔵技術の研究を進め、生産者・消費者双方の「思い」として命名し、ホクホク感と甘味のバランスのとれた、おいしいかぼちゃです。



JA北海道厚生連



組合員ならびに地域住民の皆様の生命と健康を守るため、本会事業の積極的な啓蒙推進を図ることを目的として、広報誌「すまいる」を発行しております。年 3 回発行しており、様々な医療・健康情報を発信しております。

ホームページにもバックナンバーを掲載しておりますので、是非ご一読ください。



J Aグループ北海道の連合会・中央会の活動内容をご紹介します。各団体の詳しい取り組み内容はWEBサイトをご覧ください。





感染症対策へのご協力をお願いします

新型コロナウイルスを含む感染症対策の基本は、「手洗い」や「マスクの着用を含む咳エチケット」です。

①手洗い

正しい手の洗い方

手洗いの前に
・爪は短く切っておきましょう
・時計や指輪は外しておきましょう



流水でよく手をぬらした後、石けんをつけ、手のひらをよくこすります。



手の甲をのぼすようにこすります。



指先・爪の間を念入りにこすります。



指の間を洗います。



親指と手のひらをねじり洗います。



手首も忘れずに洗います。

石けんで洗い終わったら、十分に水で流し、清潔なタオルやペーパータオルでよく拭き取って乾かします。

②咳エチケット

3つの咳エチケット

電車や職場、学校など人が集まるところでやろう



何もせずに咳やくしゃみをする

咳やくしゃみを手でおさえる



マスクを着用する(口・鼻を覆う)

ティッシュ・ハンカチで口・鼻を覆う

袖で口・鼻を覆う

正しいマスクの着用



1 鼻と口の両方を確実に覆う



2 ゴムひもを耳にかける



3 隙間がないよう鼻まで覆う

首相官邸
Prime Minister's Office of Japan

厚生労働省
Ministry of Health, Labour and Welfare

厚労省 検索



(最終更新日：令和2年2月21日)

するーらいふ 2章

『コンプリシティ(優しい共犯)』

中国湖北省武漢市にその感染源をもつ新型コロナウイルスによる死者数は2月下旬には2500人を超えた。また感染者数は中国本土では7万3千人を数える。国内に於いても中国などを周遊して停泊している大型フェリーからもコロナウイルスに感染した乗客が見つかり死亡も報告された。毎日のニュースの頭は世界に拡散される感染者数の動きなどを報道する。世の中の動きは人々の生活にも連動し経済活動などの停滞を生み出している。

人々は救世主のワクチンを待ち、乾燥期が過ぎ去るのを待つ。この時期映画館やスーパーへ繰出す人々が激減しているという。

そんな中いつものように混雑する地下道を歩き午後5時開演の映画を見に出かけた。「コンプリシティ」(優しい共犯)の副題がついている。今中国で期待される若手のルー・ユーライが主演し脇を洗い日本男優が固めた。

画面が暗く中国からの旅券などを偽造する集団との会話だと分かる。技能実習生として日本の土を踏んだ中国人青年チェン・リャンは劣悪な職場環境から逃げ出し、不法滞在者になってしまう。仲間から教えられた偽造集団から偽の在留資格証明書・パスポートを高値で買い受け、他人になりすまして生活をして行く。最上川沿いの田舎町の蕎麦屋の求人に在り付いた。無口な蕎麦屋の主人弘は事細かにチェン・リャンには尋ねなかった。不器用な中国青年と寡黙な老人との交流が始まった。自転車での蕎麦配達や店内での配膳が主な仕事だった。蕎麦屋の主人も我が子に対するような眼差しに変わって来た。主人弘は息子と店についての考え方が違い孤独を感じていた。次第に弘は中国青年へ蕎麦打ちの手解きを始める。粉挽きから捏ね方から蕎麦切まで中国の青年は主人の教えて腕を磨いた。

挫折し店を飛び出し、新天地を求めた時期もあった。行く処がない身であることを痛感した。中国を出る時当座の金を用意してくれた祖母の死の知らせで泣き暮れた日々もあった。配達の回数を重ねて好意を寄せる女性も現れた。しかし肝心な部分は嘘で染めるしかなかった。ある夜の彼女との逢瀬でチェン・リャンのズボンの後ポケットから財布が無くなった。彼女は止める彼の声を無視して交番へ走った。財布に偽造在留証明書を忍ばせていることを彼女は知るはずもなかった。

不安を隠しながらチェン・リャンは蕎麦職人の腕を磨いた。主人と北京で蕎麦屋を開く夢を語るまでになった。穏やかな蕎麦屋の店先に警察官が尋ねて来た。蕎麦屋の主人弘は店の座敷に警察官を招いた。チェン・リャンの顔の表情から隠し切れない秘密を持っていることを読み取った。その秘密は違法なものに違いないとも思った。蕎麦打ちをしているチェン・リャンに小さな紙切れを渡した。

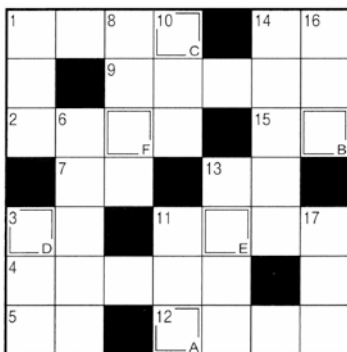
これからは観客の主観に委ねられる。紙切れに何を書いたかは解らない。それでもすべてを理解した中国青年は、最上川沿いの河原まで配達用の自転車で疾走した。短編映画界で数々の賞に輝いた監督近浦啓の初めての長編映画作品である。映画パンフレットの隅に「この嘘だけは守りたかった」とある。また音楽には懐かしい「時の流れに身をまかせ」の中国語・日本語の彼女の歌が流れる。

最寄りの地下鉄駅まで歩いた。歩行空間も列車内でもマスク姿がおおかただった。映画の余韻を愉しむには世間の喧騒のボルテージが高過ぎた。コロナウイルスの鎮静を切に願う。



コンプリシティ 優しい共犯

パズル? 頭の体操



夕テのカギ

- 成長すると鶏になります
- 太陽が東から昇る時分
- 車の方向指示器のこと
- 事故などを現場に居合わせて直接見ること
- 工業——。——社会。——政変
- 地震、雷、火事、——
- 真ちゅうやステンレス、はんだなどのこと
- 雑巾を用意して年度末の——をした
- 版画を刷るときに使います
- 旧暦3月の異称です

ヨコのカギ

- ひな人形に供える角張った食べ物
- 守備の反対語
- サンとゴの間
- 兵庫県の郷土料理。地元では卵焼きとも呼ばれます
- A、B、C……と数えて11番目
- 走ると切れることも
- 京の着倒れ、大阪の——
- 白井義男は日本人初のボクシング世界——です
- 骨と骨をつなぎます
- 白米を量るときに使う単位の一つ
- 父や母の姉妹です
- して得取れ

先月号の答え

パズル? 頭の体操



解答 A B C D E F
チ ヨ コ レ ー ト

J A のあゆみ 2月

- 4日 留萌・上川地区JA役員研修会(旭川)
JA女性部同交流会(旭川)
- 5日 留萌・上川地区JA監事冬期研修会(旭川)
(6日)
- 6日 愛別町農業再生協議会全体会議
愛別町米麦生産協議会役員会
JA青年部役員会
- 7日 初牛祈法要
愛別町畜産振興基金定期総会
- 12日 第41回愛別町農業青色申告会定期総会
上川中央部JA将来構想検討委員会
胡瓜栽培講習会
- 13日 上川地区酪農畜産対策委員会(旭川)
上川地区農協組合長会議(旭川)
- 17日 愛別町野菜振興協議会役員会
愛別町農連常任執行委員会
企画会議
- 18日 南瓜栽培講習会
きのこ振興会総会
- 20日 第46回愛別町農機連定期総会
地酒「ふしこ」を愛でる夕べ
- 21日 JA青年部定期総会
- 25日 第25回愛別町米麦生産振興協議会定期総会
水稲・畑作講習会(愛別)
- 27日 第1回定例理事会
中央会内部監査(期末) (28日)

組合員のうごき

(令和2年1月27日現在)

正組合員戸数	335戸
総組合員数	2,334名
正組合員数	520名
うち団体数	33団体
准組合員数	1,814名
うち団体数	61団体

第12回定例理事会

令和2年1月27日開催

- 1 ■報告事項
組合員の脱退について
7名の脱退について報告した。
- 2 令和2年度クミカン資金(仮)供給限度額の設定について
クミカン運用に伴う仮設定について報告した。
- 3 平成31年度草地事業実績報告について
2件の事業内容を報告した。
- 4 固定資産の取得について
21号低温倉庫冷却器の改修取得の内容について報告した。
- 1 ■議事
出資持分の相続並びに譲渡について
3件の譲渡について承認された。
- 2 組合員の加入報告並びに組合員資格について
2件の加入を報告し、資格について承認された。
- 3 組合員の資格変更について
1件の資格変更について承認された。
- 4 令和2年度理事に対するクミカン資金(仮)供給限度額の設定について
理事のクミカン運用に伴う仮設定について内容を説明し、14件利用が承認された。
- 5 令和2年度内部監査計画及び経営定期点検実施計画の設定について
内部監査並びに経営定期点検の実施計画内容を説明し、承認された。
- 6 規程の部修正について
7件の改正内容を説明し、承認された。
- 7 役員報酬審議委員の選任について
10名の報酬審議委員について承認された。
- 8 資金の融資について
1件の融資案件について審議の結果、承認された。
- 1 ■追加報告事項
組合員の脱退について
1名の脱退について報告した。
- 2 固定資産の譲渡について
上川町の一部の土地・倉庫譲渡完了について報告した。
- 3 農家経済対策委員会等の期末について
第5回農家経済対策委員会の期末について報告した。
- 1 ■追加議案
資金の融資について
1件の融資案件について審議の結果、承認された。

お知らせ 採用職員及び人事異動のお知らせ

◆新規採用◆ 準職員紹介



つちだ ふみよ
土田 富美代

部署/金融部金融課金融係

(令和2年2月1日付)

◆新規採用◆ パート職員紹介



やまざき みか
山崎 三香

部署/営農部上川営農センター
地域振興係

(令和2年2月12日付)

人事異動の お知らせ

川村 ゆきえ
新 営農販売課営農販売係
旧 営農販売課営農販売係
共済課共済係
(2月1日付)

岡田 健
新 資材課愛別資材係
旧 資材課愛別資材係
上川営農センター営農販売係
(2月1日付)

児島 遥香
新 共済課共済係
旧 金融課金融係
(2月1日付)



シジミとセリのペンネ

今日の
オススメ

材料(2人分)

ペンネ	100g
セリ	1束
オリーブ油	大きじ2
ニンニク	1片
シジミ	200g
水	2と1/2カップ
塩・こしょう	適宜

作り方

- (1) 鍋にオリーブ油とつぶしたニンニクを入れ熱し、ニンニクの香りが立ったらシジミと水を入れ強火にかける。
- (2) 途中あくを取りながら4分の1ほどに煮詰める。
- (3) 鍋に塩を入れて沸かし、ペンネをゆでる。
- (4) ゆで上がったペンネを(2)に入れ、シジミのだしをしっかりと吸わせ、長めに切ったセリを入れ、塩・こしょうで味を調え出来上がり。

公告

上川中央農業協同組合第12回通常総会を次の日程により開催いたします。

- 1.開催日時 **令和2年4月3日(金)**
受付 午前8時30分
- 2.開催場所 **上川郡愛別町本町**
愛別町総合センター

※出席対象は、当組合の組合員(正・准組合員)です。
※議決権は、正組合員のみとなっております。

営業日/営業時間 変更のお知らせ

○ホクレン愛別給油所

平日・土曜 8:00~18:30

期間：令和2年4月1日~9月30日

日曜・祝日 8:30~17:30

期間：令和2年4月1日~10月31日

○ホクレン上川給油所

平日・土曜 8:00~19:00

日曜・祝日 8:00~18:00

期間：令和2年4月1日~10月31日

○資材店舗(本所・支所)・農機センター

土曜 8:30~12:30 営業

期間：令和2年3月7日~



購読のお勧め

THE JAPAN AGRICULTURAL NEWS

日本農業新聞

読んで役に立つ!おもしろい!紙面を紹介します。

●購読のお申し込みについて

1ヶ月 2,520円(税込み)

※お近くの新聞販売店からお届けします。

お申込み先:地域振興係(本所:TEL6-5315・支所TEL2-1113)